生涯学習だより

文化財保護委員会の活動

文化財の保存および活用のため、調査研究などを行っている文化財保護委員会の活動をご紹介します。

文化財の保存・活用

主な活動としては、年6回定例会を開催し、文化財保護に関する協議をしています。講師を務める歴史講座や歴史文化財ウォークに向けての話し合いや文化財の説明を書いた文化財説明板の作成・設置など松田町の大切な文化財を保存・活用するため活動を進めています。

また、広報まつだの「文化財探訪」のコーナーに松田の歴史に関わる記事を寄せ、文化財を文字や写真にして保存する活動も継続しています。

今年度は、生涯学習センターに「松田城」の展示コーナーを設け、町民の皆さまに広く周知を図っています。松田城周辺の城を地図上に表示できる電光パネルも設置しました。

歴史文化財ウォーク

12月10日には、桐生海正文化財保護委員を講師に「松田城を歩く」のテーマで、歴史文化財ウォークを行いました。

参加者の皆さんは、生涯学習センターから歩いて松田城址に向かい、講師より現地を見ながら「松田城」の説明を受け、城跡を見学しました。「松田城址」から望む足柄平野を眺めながら、参加者の皆さんはそれぞれに古の松田に思いを馳せていました。

問 教育課 生涯学習係
☎(83)7021

資料を手に「松田城」の様子を説明する桐生さん

松田文化財探訪

続・町指定文化財とその周辺 その34

文化財保護委員 鈴木 一行

余話として(一) 二人の松田氏②

南北朝時代、相模松田氏は南朝方に属し足利軍と戦いました。『太平記』には新田義興らと共に河村城(山北町)に籠城する同氏の名が見えます。だがその後、同氏の名は文献から消えてしまいます。そして、再びその名が現れるのは百十年後の寛正三年(1462)のこと。堀越公方足利政知が松田左衛門尉頼秀の所領である東大友(小田原市)を没収したことが鶴岡八幡宮所蔵文書に見えるのです。当時、松田氏は堀越公方や大森氏と対立していたと考えられます。

さて、関東では1454年に享徳の乱(古河公方と上杉氏の対立。1482年まで)が始まり、戦国時代に突入します。この時、頼秀は上杉方についていたことが扇谷上杉家の家宰太田道灌の手紙(1480年)で分かります。次いで、長享の乱(山内・扇谷の両上杉氏の対立。1487～1505年)では山内上杉氏に味方します。だが、頼秀は窮地に陥るのでした。1494年、頼秀は死を覚悟した胸中を龍泉庵(現、竜泉寺。相模原市)住職に伝えています。この手紙の写しは竜泉寺に残されており、「佐野松田系図」(『続群書類従』第六輯下)にも載せられています。竜泉寺の地元の旧津久井町では頼秀はこの地で自刃したとされ、今も地元の人々によって供養されています。

松田頼秀は謎の多い人物です。しかし、太田道灌は臼井城(千葉県)攻めの際「河村大和守が無断で逃げ帰ったのに対し、頼秀は陣に留まって忠勤に励んだ」と称賛しています(「太田道灌状」)。また、東京帝国大学教授であった田中義成博士は「相州松田領主松田頼秀も学者にて」と『足利時代史』の中で評しています。松田頼秀は文武に秀でた武将であったようです。

松田頼秀墓